

糸魚川市の観光の状況について (平成 30 年度版)



(フォッサマグナパークリニューアル開園式の様子)

糸魚川市産業部商工観光課

令和元年 6 月

目次

◆ 調査概要

1	調査の期間	1
2	調査方法	1
3	調査地点	1

I 平成 30 年度の糸魚川市の観光の現状

1	平成 30 年度の観光客の入込状況（概況）	2
2	平成 30 年度の月別・目的別観光入込客数	2
	（1）月別観光入込客数	
	（2）目的別観光入込客数	
3	平成 30 年度の目的別観光入込客数の前年度比較	4
	（1）温泉施設	
	（2）自然景観	
	（3）名所・旧跡	
	（4）文化施設	
	（5）産業観光	
	（6）祭・イベント	
	（7）海水浴	
	（8）スキー場	
	（9）登山・ハイキング・キャンプ場	
	（10）その他（ゴルフ場・釣り・プール等）	

II 平成 30 年度の宿泊者の入込状況

1	平成 30 年度の宿泊者の入込状況（概況）	9
2	平成 30 年度の月別・割合別宿泊者数	9
	（1）月別宿泊者数の前年度比較	
	（2）方面別温泉宿泊施設入込客数	
3	外国人宿泊者数	11

III 過去の入込客統計調査との比較

1	観光入込客数の推移	12
2	目的別観光入込客数の推移と新潟県入込客数との比較	12
	（1）温泉施設	
	（2）海水浴	
	（3）スキー場	
3	宿泊者数の推移と新潟県入込客数との比較	14
4	外国人宿泊者数の推移と新潟県入込客数の比較	15

IV 経済効果

1	観光庁「旅行・観光消費動向調査」における経済効果	16
2	糸魚川ジオパーク観光動態調査における経済効果	17

V 平成 30 年度に講じた施策

1	誘客宣伝活動の促進	18
2	受入態勢の充実	19

◆ 調査概要

本調査は、観光庁が定めた「観光入込客統計に関する共通基準」(平成 21 年 12 月観光庁策定)に準拠し、観光入込客数などを推計したものである。

1 調査の期間

平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで

2 調査方法

(1) 観光入込客統計調査

四半期ごとに、市内の観光地点の管理者、祭行事・イベントの主催者等に対して入込客数を調査し、集計した。

(2) 宿泊客数調査

四半期ごとに、市内の宿泊施設に対して県内から来訪者した宿泊者と県外から来訪した宿泊者を分けて宿泊客数を調査し、集計した。

(3) 海水浴客入込客数調査

海水浴場開設期間中に 10 日ごとに入込客数を調査し、集計した。

3 調査地点

観光入込客調査地点は以下の 115 か所である。

対象	主な施設名称	対象箇所
温泉	柵口温泉、姫川温泉等	14
自然景観	高浪の池、小滝川ヒスイ峡等	9
名所・旧跡	翡翠園、相馬御風宅、親不知レンガトンネル等	7
文化施設	ジオパル、フォッサマグナミュージアム等	9
産業施設	マリンドリーム能生、ヒスイ王国館等	8
祭・イベント	おまんた祭り、荒波あんこう祭り等	40
海水浴	能生海水浴場、糸魚川海水浴場、親不知海水浴場等	6
スキー場	シーサイドバレースキー場、シャルマン火打スキー場	2
登山・ハイキング・キャンプ場	雨飾山登山、荒崎キャンプ場等	14
その他	糸魚川カントリークラブ、溪流釣り等	6

I 平成 30 年度の糸魚川市の観光の現状

1 平成 30 年度の観光客の入込状況(概況)

- 平成 30 年度は文化施設や観光産業、自然景観への入込数が増加し、前年比で 105.9%となった。
- 夏季は猛暑、冬季は少雪、秋季は台風と天候に左右され、入込数にも影響があった。

平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで

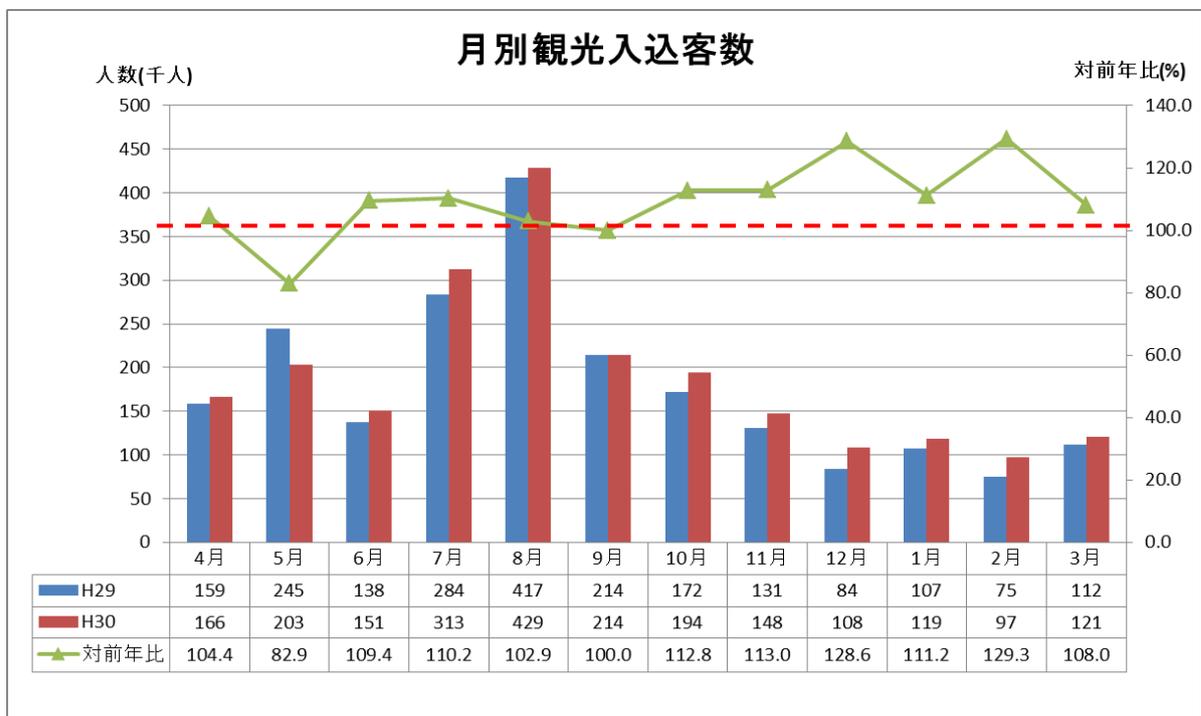
総数 2,263,020 人 (対前年比 105.9%、125,330 人増)

※ 平成 29 年度総数 2,137,690 人

2 平成 30 年度の月別・目的別観光入込客数

(1) 月別観光入込客数

- 前年同様 8 月が月別で最大の入込客数を記録し、猛暑により避暑地への入込数が増加したことにより、前年より入込数が増加した。
- 5 月は前年度と比較して、ゴールデンウィークの日数が少なく月の 3 分の 1 程度が雨天となったことが影響し、どの目的別においても入込数が大きく減少した。
- 冬季は全体的に雪不足となり、スキー客が比較的積雪量の多い市内のスキー場に流れ、入込数が増加した。



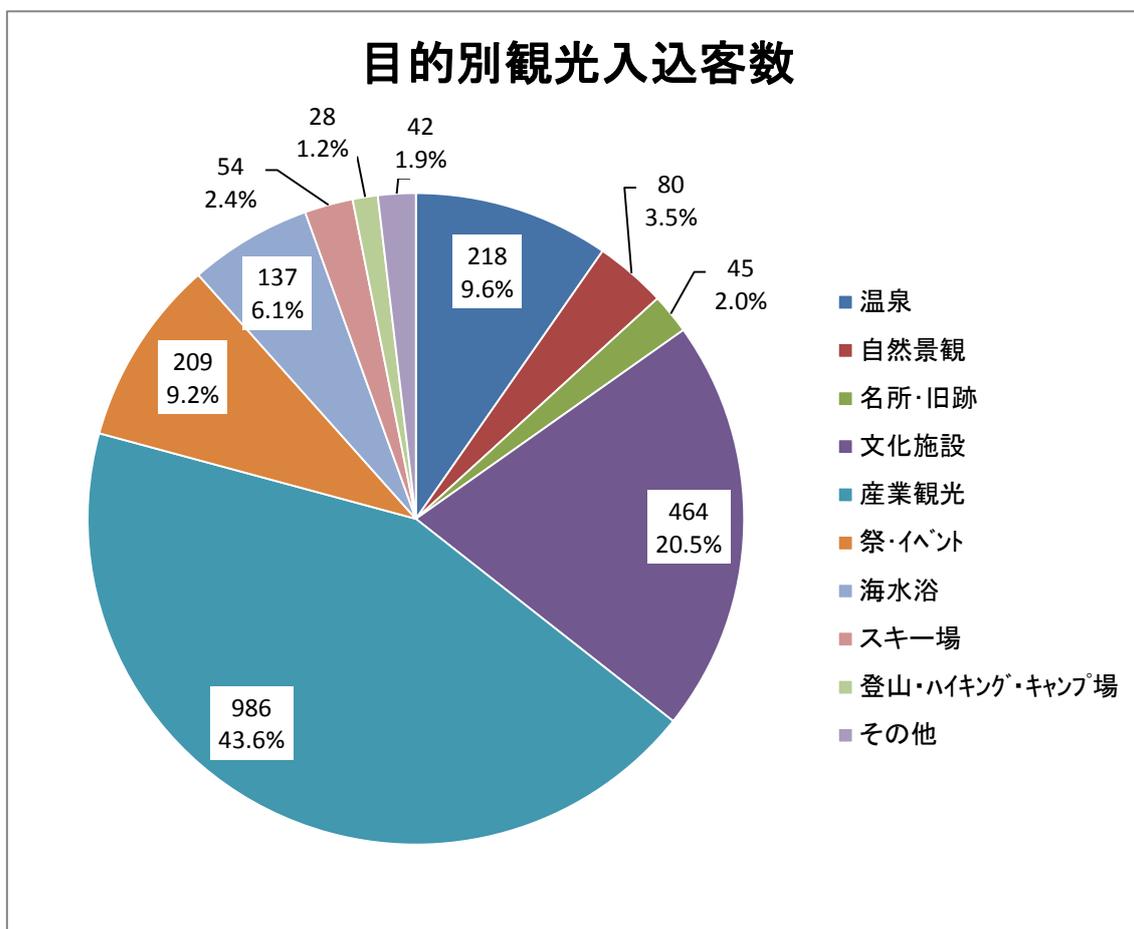
(2) 目的別観光入込客数

- 産業観光が全体の43.6%を占めており、次いで文化施設、温泉の順となっている。
- ジオパルの利用者や鉄道ジオラマのリピーターが増加したことにより、文化施設が前年比で123.4%となった。
- 秋季は台風の影響でイベントが中止となり、入込数も減となった。

(千人)

区分	H30	H29	前年差	対前年比	構成比	地点数
温泉	218	225	△7	96.9%	9.6%	14 地点
自然景観	80	73	7	109.6%	3.5%	9 地点
名所・旧跡	45	48	△3	93.8%	2.0%	7 地点
文化施設	464	376	88	123.4%	20.5%	9 地点
産業観光	986	936	50	105.3%	43.6%	8 地点
祭・イベント	209	217	△8	96.3%	9.2%	40 地点
海水浴	137	138	△1	99.3%	6.1%	6 地点
スキー場	54	52	2	103.8%	2.4%	2 地点
登山・ハイキング・キャンプ場	28	29	△1	96.6%	1.2%	14 地点
その他	42	43	△1	97.7%	1.9%	6 地点
合計	2,263	2,137	1	100.0%	100.0%	115 地点

※四捨五入したため、合計の数字と内訳の計が一致しない場合があります。



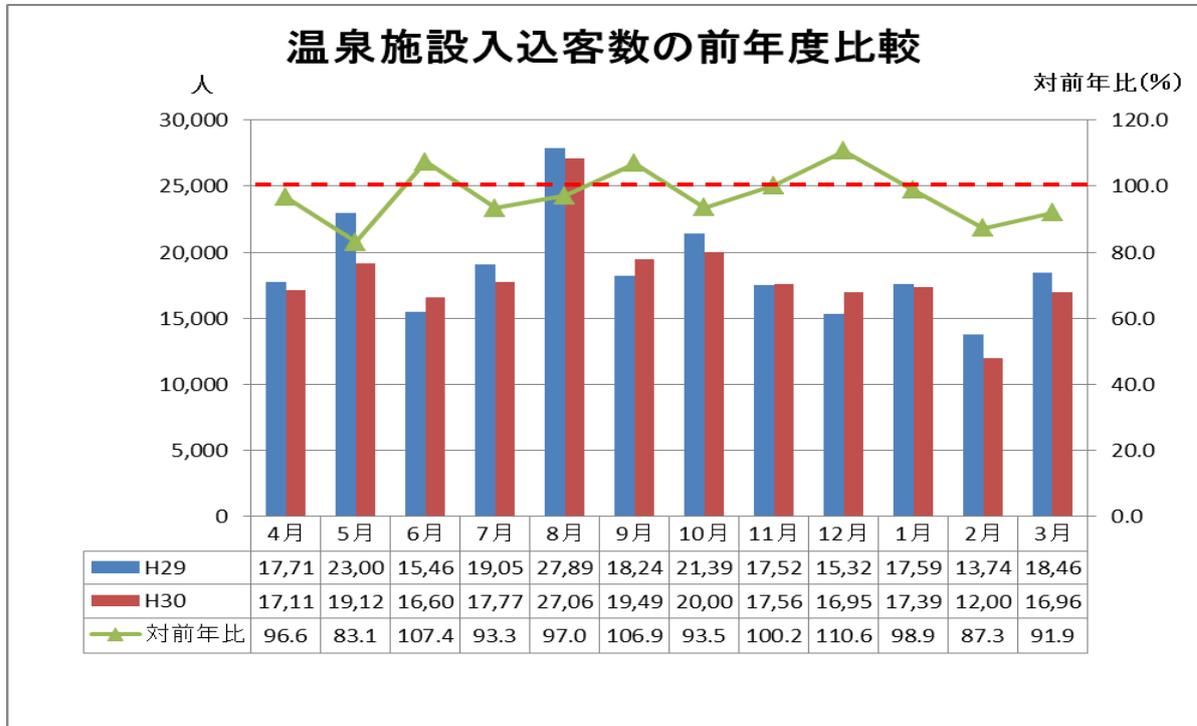
3 平成 30 年度の目的別観光入込客数の前年度比較

(1) 温泉施設

◇ 平成 30 年度 218,010 人（平成 29 年度 225,370 人）前年比 96.7%

○ 12 月は前年比 110.6%となったが、他の月は入込が減少もしくは横ばいとなった。

○ 前年同様 8 月の入込客数が年間を通じて最も多いが、前年比 97.0%となった。

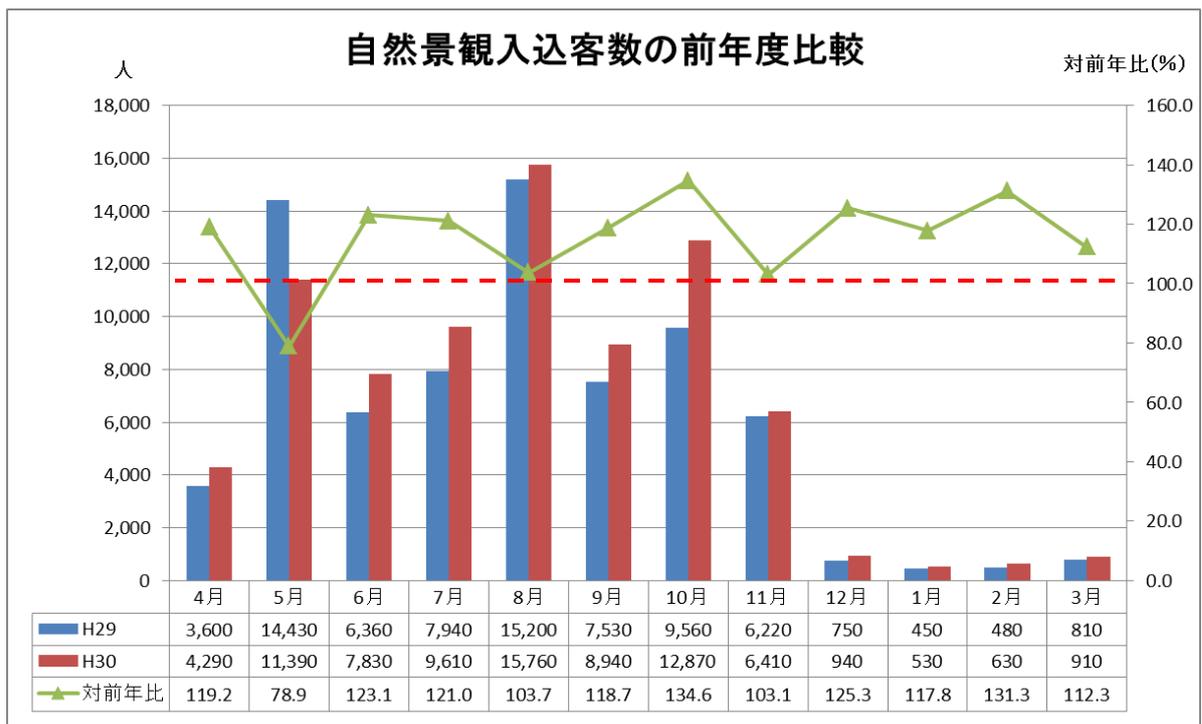


(2) 自然景観

◇ 平成 30 年度 80,110 人（平成 29 年度 73,330 人）前年比 109.2%

○ 5 月は天候不順が影響し、前年比 78.9%となり入込数が大幅に減少した。

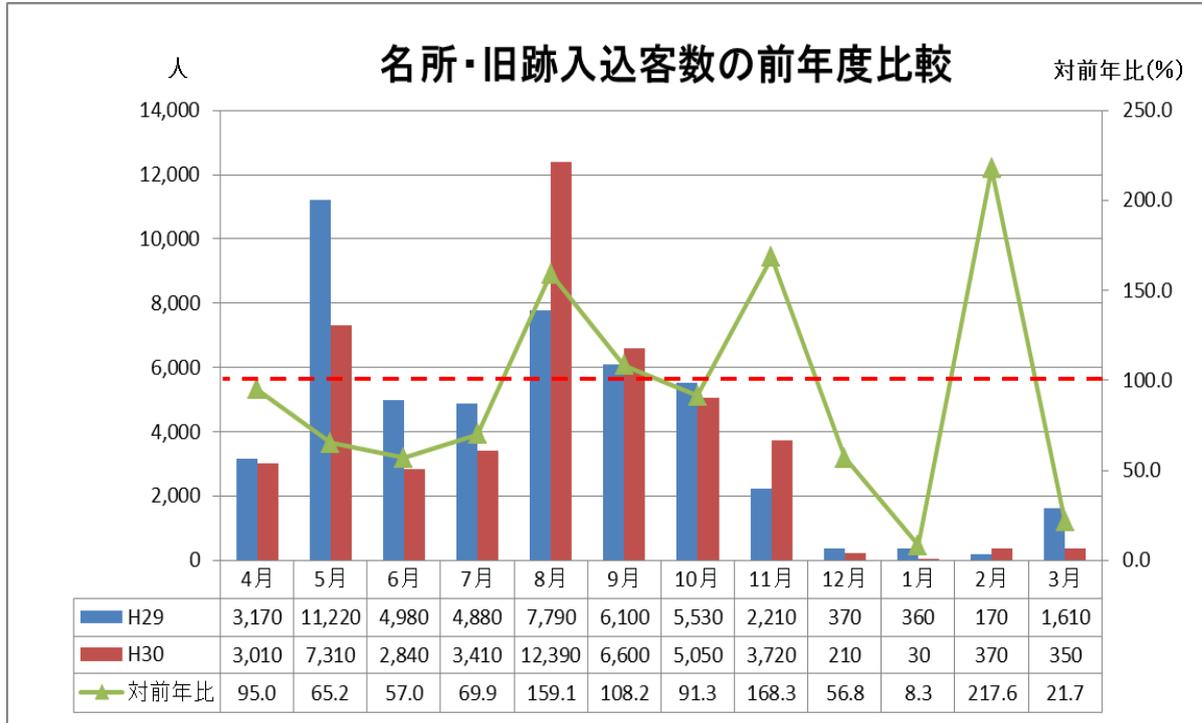
○ 6 月から 10 月は猛暑が影響し、避暑地となる地点の入込数が増加した。



(3) 名所・旧跡

◇ 平成30年度 45,290人 (平成29年度 48,390人) 前年比 93.6%

○ 8月・9月・11月はフォッサマグナパークのリニューアルオープンが影響し、前年と比較して入込数が増加した。

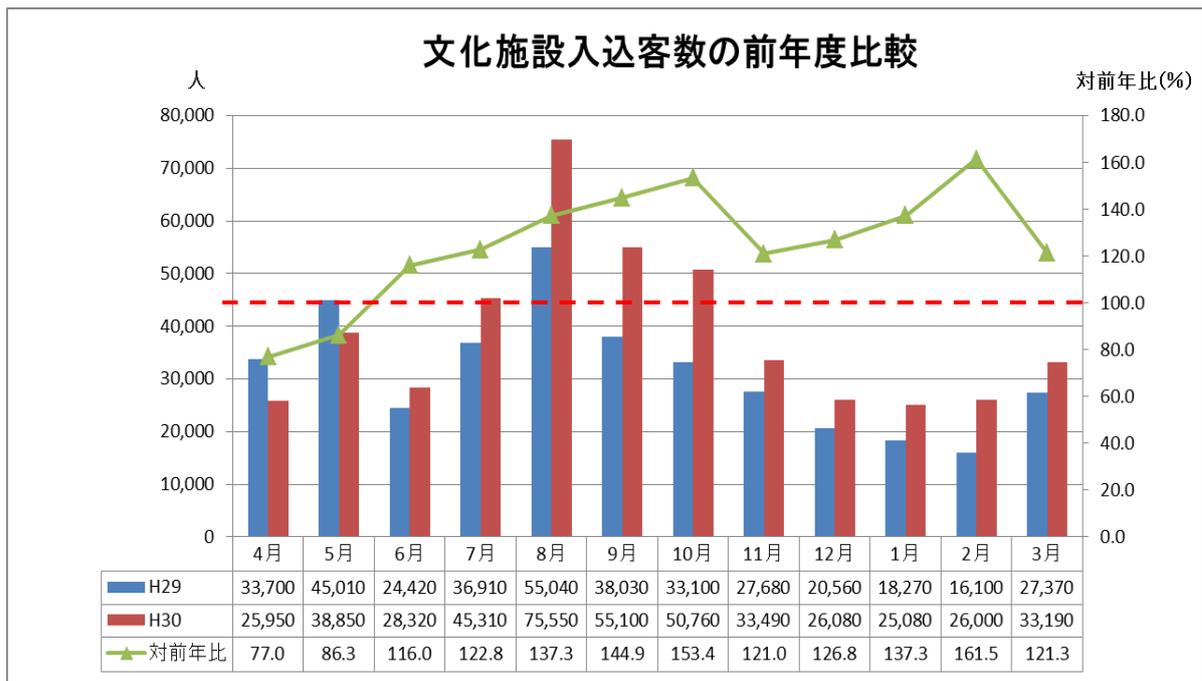


(4) 文化施設

◇ 平成30年度 463,680人 (平成29年度 376,190人) 前年比 123.3%

○ ジオパルの利用者や鉄道ジオラマのリピーターが増加したことにより、前年度と比較して6月から3月まで入込数が大幅に増加した。

○ 冬季は少雪の影響により屋外施設での入込数が増加した。

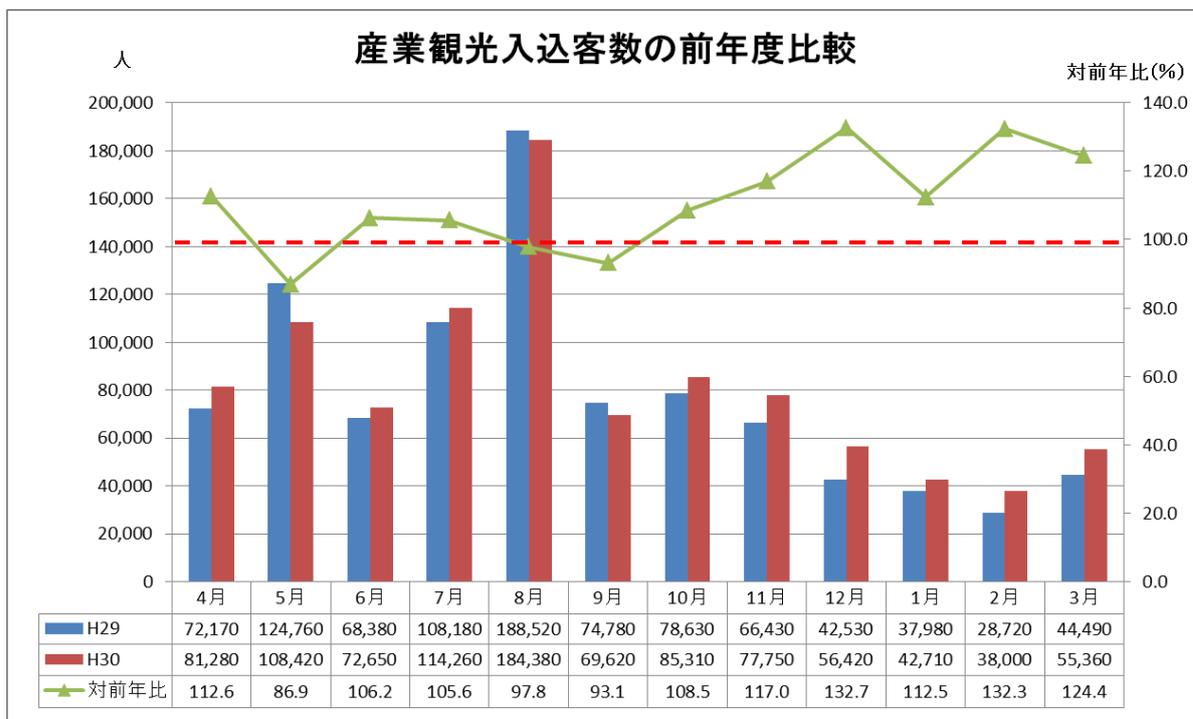


(5) 産業観光

◇ 平成30年度 986,160人 (平成29年度 935,570人) 前年比 105.4%

○ 5月・8月・9月は前年度より入込数が減少したが、その他の月は入込数が増加した。

○ 加賀の井酒造の観光客受入再開や豊穰蔵オープンも入込数増加に影響している。

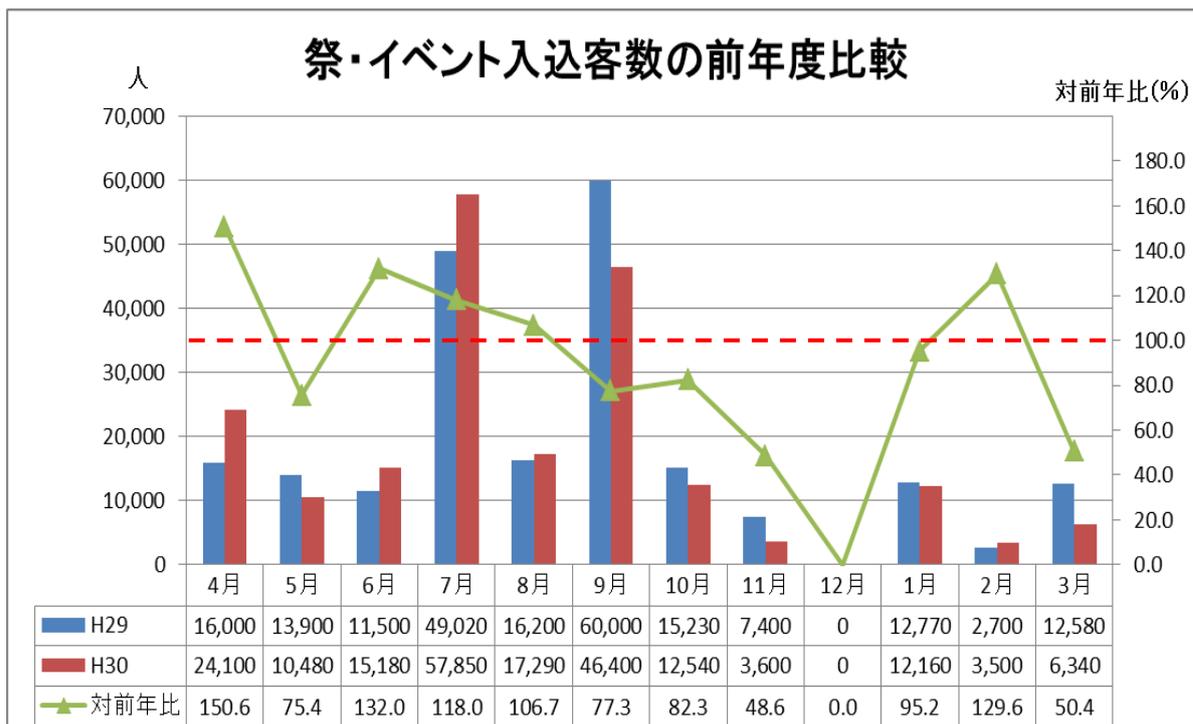


(6) 祭・イベント

◇ 平成30年度 209,440人 (平成29年度 217,300人) 前年比 96.4%

○ 平成30年度の入込数は荒天が影響し、中止となったものがあり入込数が減少した。

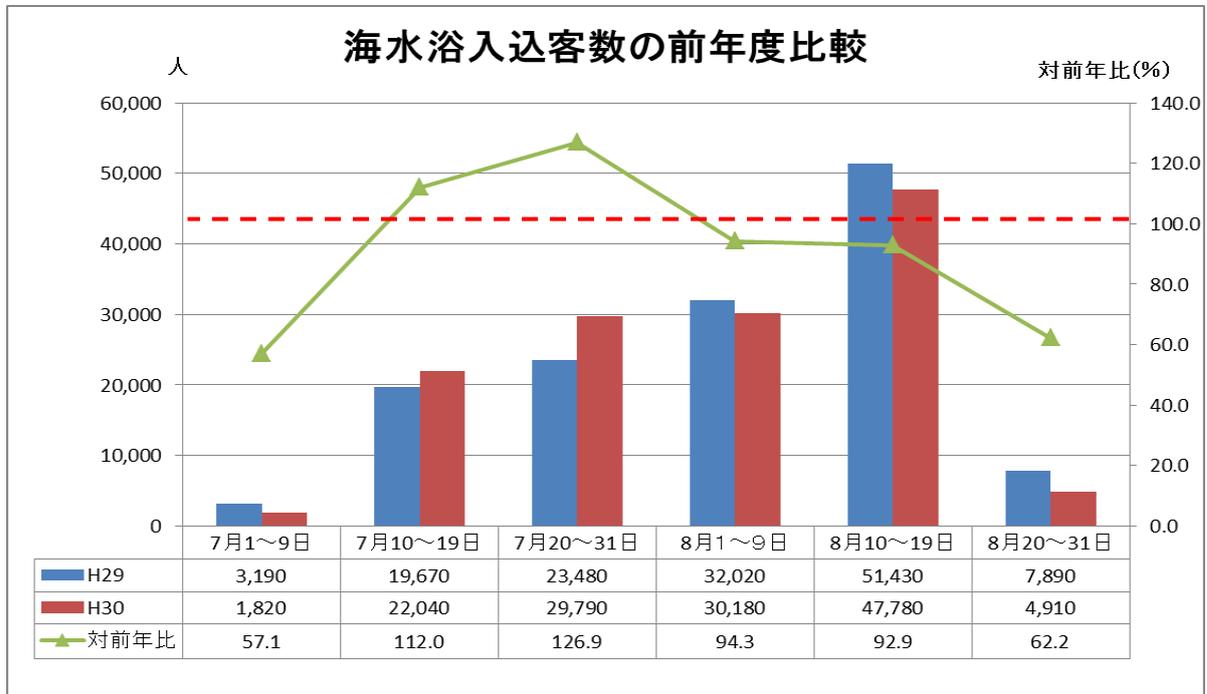
○ 4月・6月は復興マルシェの開催などにより、前年と比較して入込数が増加した。



(7) 海水浴

◇ 平成30年度 136,520人 (平成29年度 137,680人) 前年比 99.2%

○ 前年度と比較して、7月中旬から下旬は前年度より増加したが、8月は猛暑の影響により減少した。

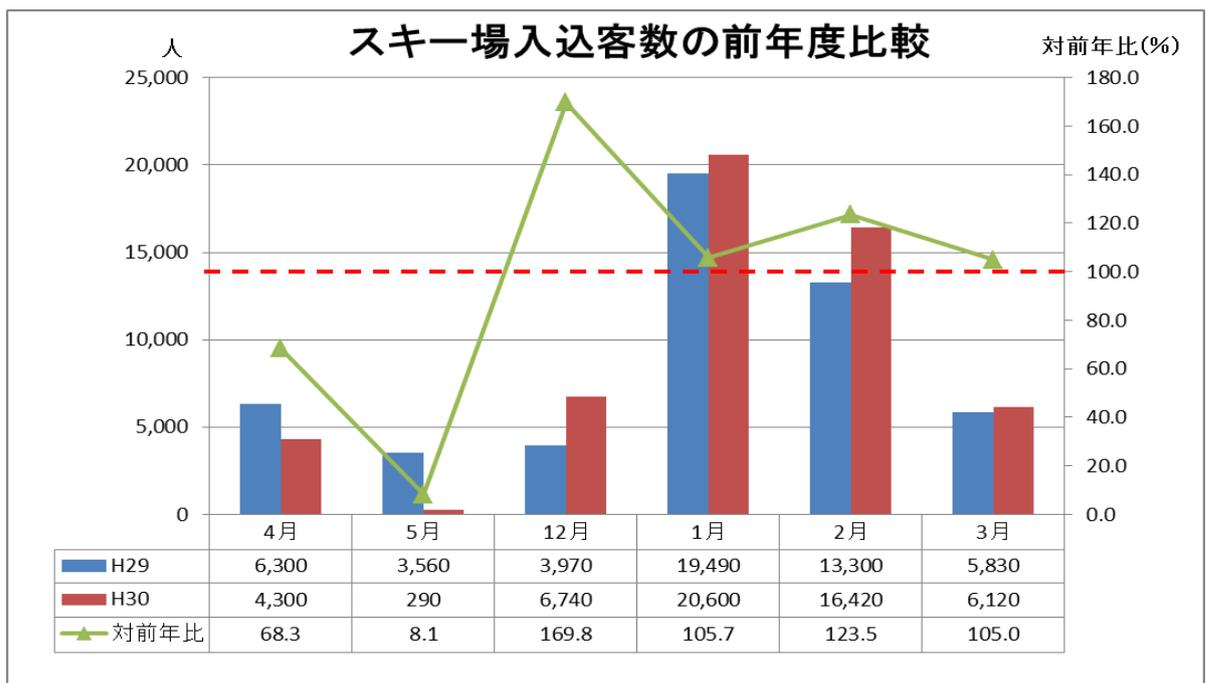


(8) スキー場

◇ 平成30年度 54,470人 (平成29年度 52,450人) 前年比 103.9%

○ 4・5月は気温が上昇し、融雪が進んだことから入込数が減少した。

○ 12月から3月は少雪により、全県的に雪不足となりスキー客が比較的積雪量の多い市内のスキー場に流れ、入込数が増加した。

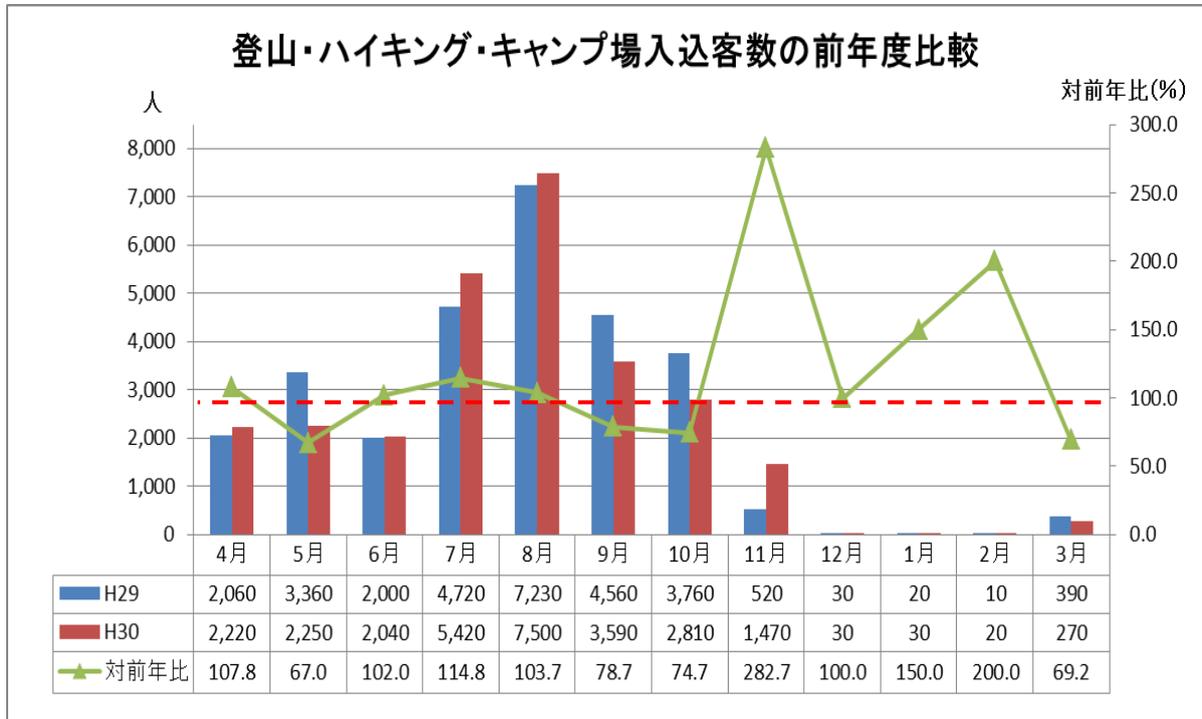


(9) 登山・ハイキング・キャンプ場

◇ 平成30年度27,650人(平成29年度28,660人)前年比96.5%

○ 例年、夏季の入込数が多い。7月は須沢オートキャンプ場の利用増が影響している。

○ 11月は雨飾山登山や海谷山塊登山の入込数が増加した。

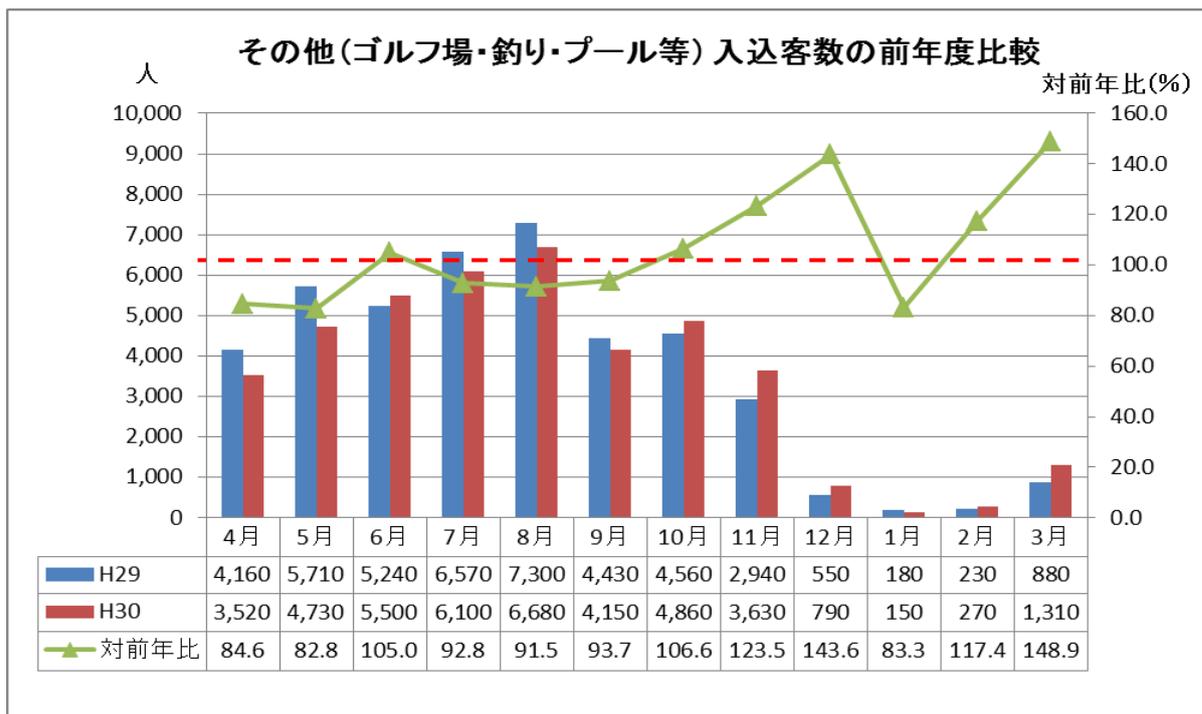


(10) その他(ゴルフ場・釣り・プール等)

◇ 平成30年度41,690人(平成29年度42,750人)前年比97.5%

○ 前年度と比較して、夏季の猛暑が影響し入込数が減少した。

○ 冬季は少雪で屋外施設の入込数が増加した。



Ⅱ 平成 30 年度の宿泊者の入込状況

1 平成 30 年度の宿泊者の入込状況(概況)

- 例年 20 万人弱の宿泊があり、8 月・10 月に宿泊者が多い。
- 平成 30 年度は、宿泊施設の減少や夏季は猛暑、秋季は台風など天候不順の影響等があったが、外国人宿泊者数が増加したことで、前年比 101.2%となった。

平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで

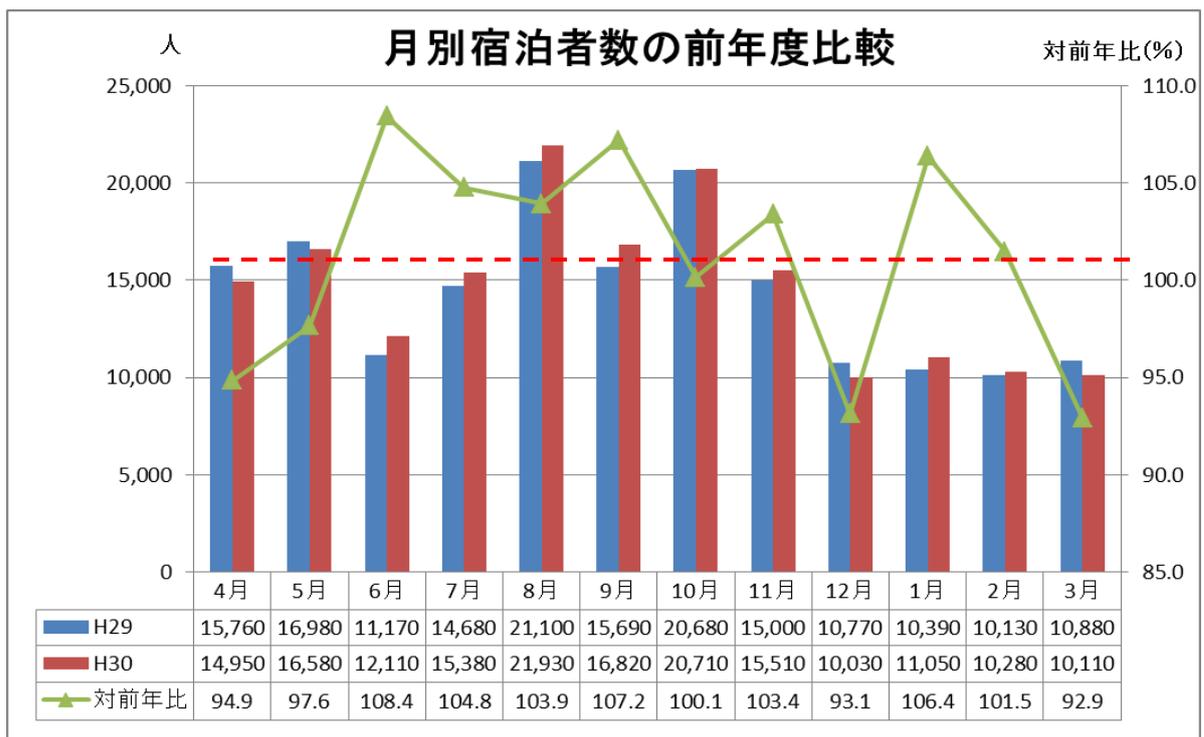
総数(推計) 175,460 人 (対前年比 101.3%、2,230 人増)

※ 平成 29 年度総数 173,230 人

2 平成 30 年度の月別・割合別宿泊者数

(1) 月別宿泊者数の前年度比較

- 前年度は夏季の天候不順による入込数の大幅な減少により全体の宿泊者数が減少していたが、今年度は夏季から秋季にかけての宿泊者数が増加した。
- 1 月・2 月の宿泊者数はスキー場入込客数の増加に伴い増加した。
- 主にビジネス客(定期修繕の作業員を含む。)を対象としている施設の宿泊者数が増加した。

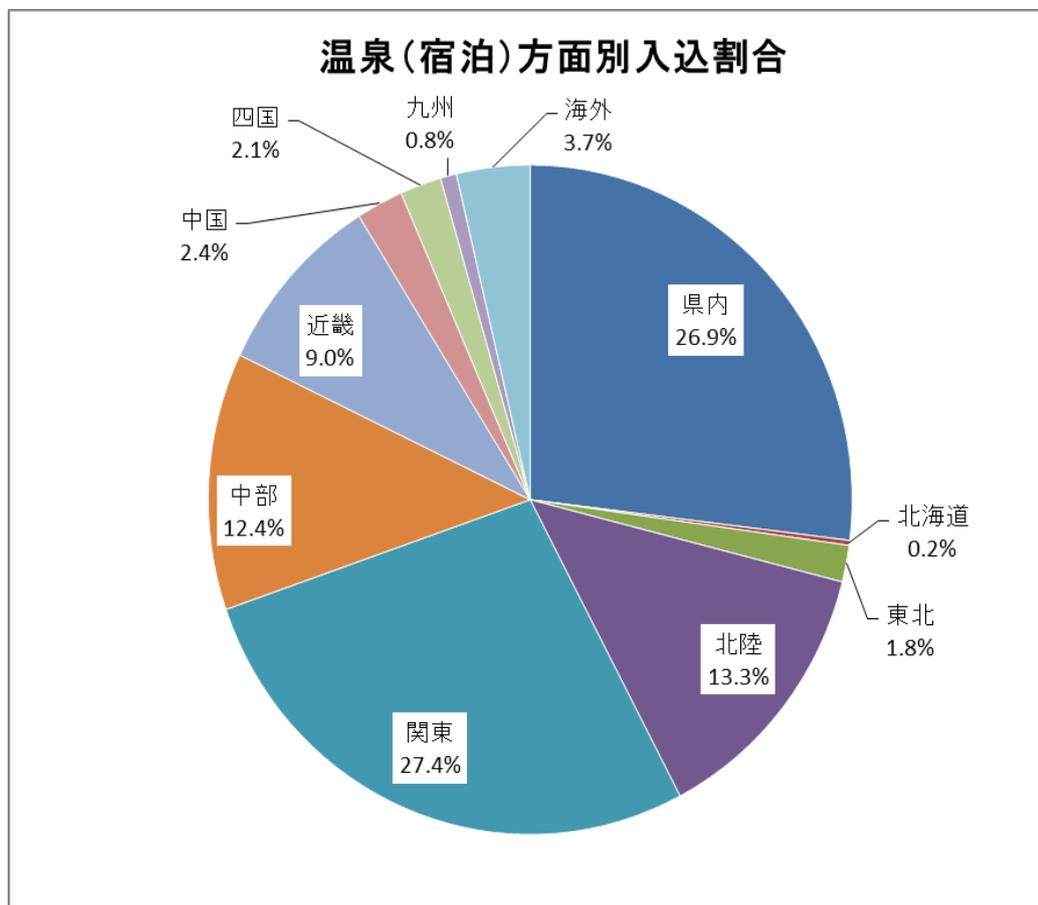


(2) 方面別温泉宿泊施設入込客数

- 主要温泉宿泊施設 10 か所の方面別入込客数で、県内 26%、県外 74%の割合となっている。
- 県外では、関東地方が全体の約 3 割を占めており、次いで北陸地方、中部地方となっている。

(人)

	H30	H29	対前年比	構成比																																			
県内	18,420	17,970	103%	26.9%																																			
北海道	165	406	41%	0.2%																																			
東北	1,210	1,975	61%	1.8%																																			
北陸	9,121	7,659	119%	13.3%																																			
関東	18,725	21,568	87%	27.4%	中部	8,496	8,057	105%	12.4%	近畿	6,130	6,324	97%	9.0%	中国	1,610	1,162	139%	2.4%	四国	1,420	521	273%	2.1%	九州	553	397	139%	0.8%	海外	2,516	1,841	137%	3.7%	合計	68,366	67,880	101%	100.0%
中部	8,496	8,057	105%	12.4%																																			
近畿	6,130	6,324	97%	9.0%																																			
中国	1,610	1,162	139%	2.4%																																			
四国	1,420	521	273%	2.1%																																			
九州	553	397	139%	0.8%																																			
海外	2,516	1,841	137%	3.7%																																			
合計	68,366	67,880	101%	100.0%																																			

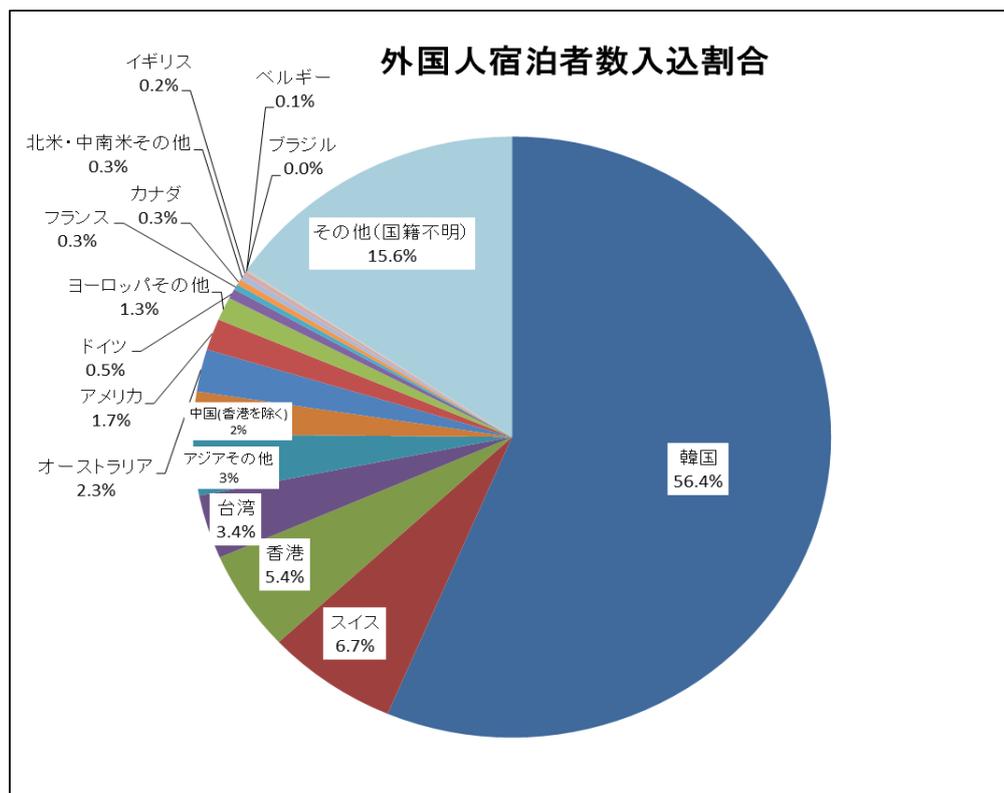


3 外国人宿泊者数

○ インバウンド受入推進や北陸新幹線開業等の効果により国内の宿泊者数は増加傾向となっており、市内外国人宿泊者数は前年比で113.7%となった。

(人)

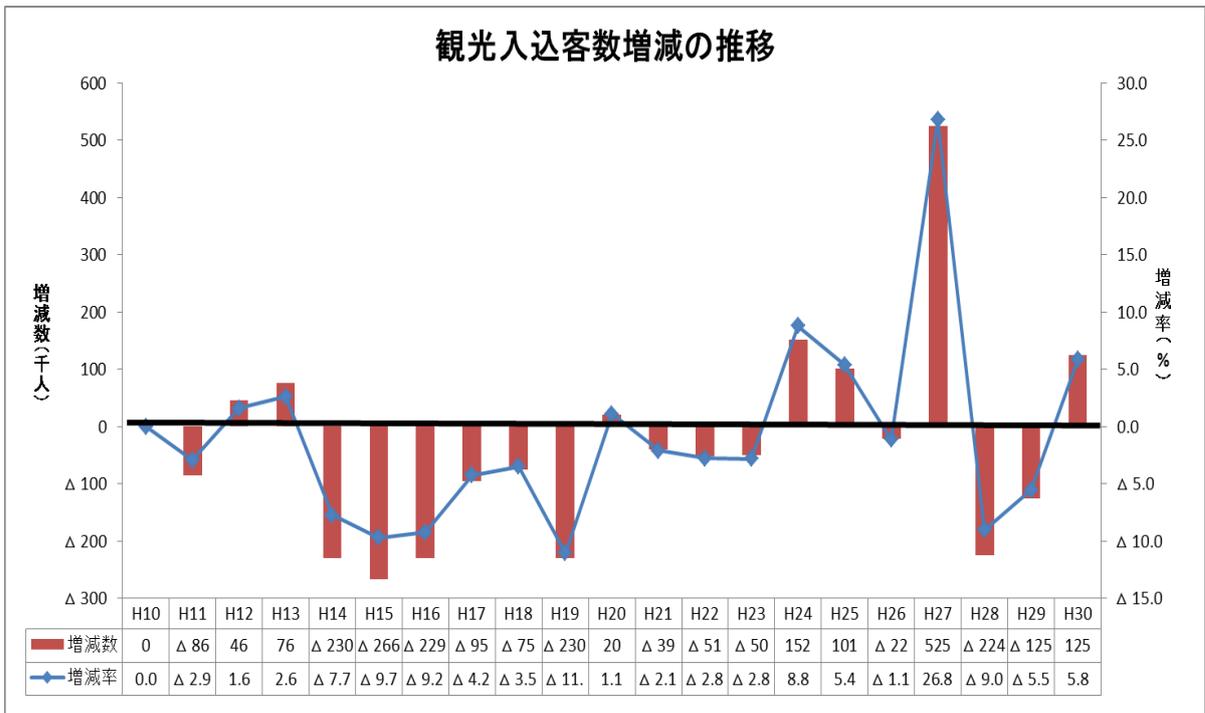
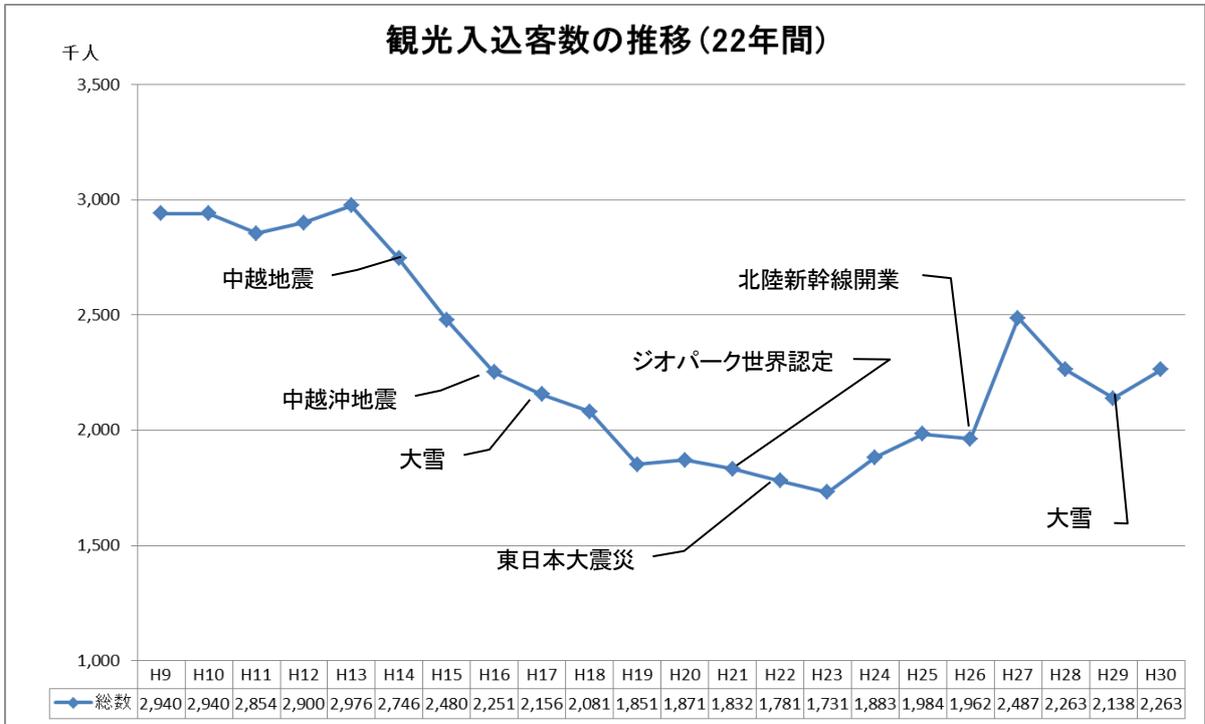
対象	H30	H29	対前年比	構成比
韓国	1,706	1,617	105.5%	56.4%
スイス	202	263	76.8%	6.7%
香港	163	74	220.3%	5.4%
台湾	104	78	133.3%	3.4%
アジアその他	99	40	247.5%	3.3%
中国(香港を除く)	69	192	35.9%	2.3%
オーストラリア	69	9	766.7%	2.3%
アメリカ	51	96	53.1%	1.7%
ヨーロッパその他	38	8	475.0%	1.3%
ドイツ	16	12	133.3%	0.5%
フランス	9	11	81.8%	0.3%
カナダ	9	0	-	0.3%
北米・中南米その他	9	39	23.1%	0.3%
イギリス	7	30	23.3%	0.2%
ベルギー	2	0	-	0.1%
ブラジル	1	0	-	0.0%
その他(国籍不明)	472	193	244.6%	15.6%
合計	3,026	2,662	113.7%	100.0%



Ⅲ 過去の入込客統計調査との比較

1 観光入込客数の推移

- 平成 13 年度の 297 万人から減少していたが平成 24 年度から回復基調である。
- 平成 27 年度は北陸新幹線の開業効果により、ジオステーションジオパル、フォッサマグナミュージアム等の文化施設の入込客数が増加したため大幅に伸びている。
- 北陸新幹線開業効果が落ち着いたため、H28・H29 の入込は減少傾向となった。

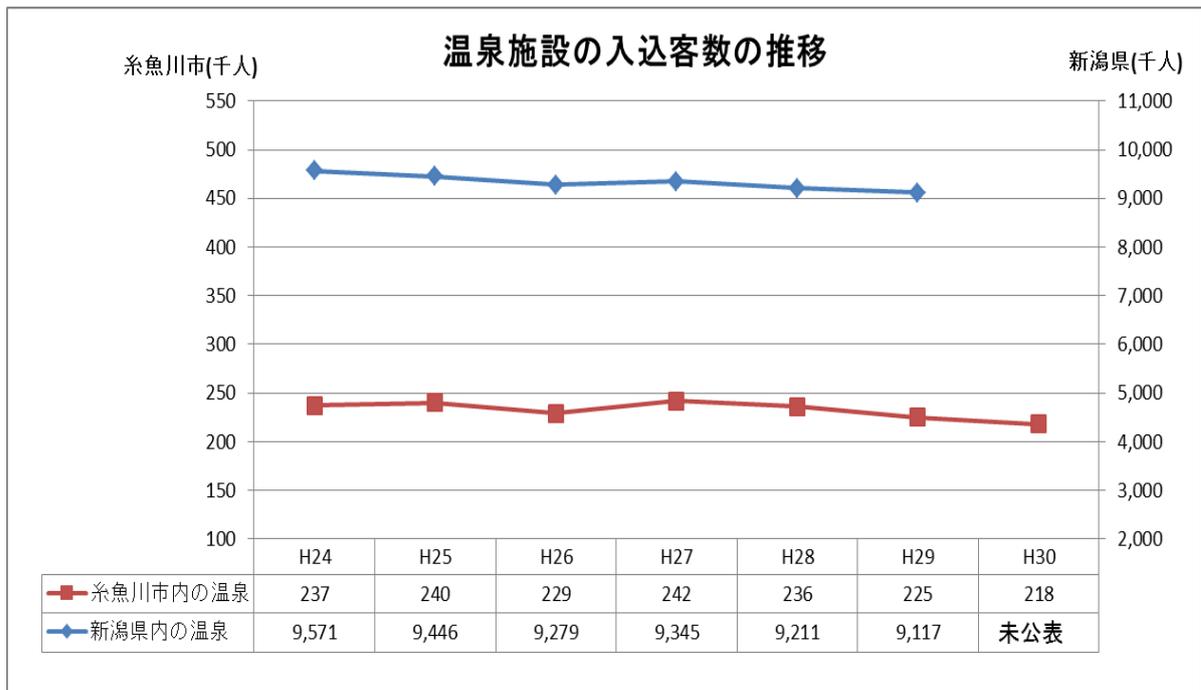


2 目的別観光入込客数の推移と新潟県入込客数との比較

目的別の観光入込客数を集計した。なお、参考のために新潟県の目的別入込客数(公表値)を図表に加えた。新潟県の入込客数の推移と同様の傾向を示すものについては、新潟県全体において影響となる要因があると考えられる。

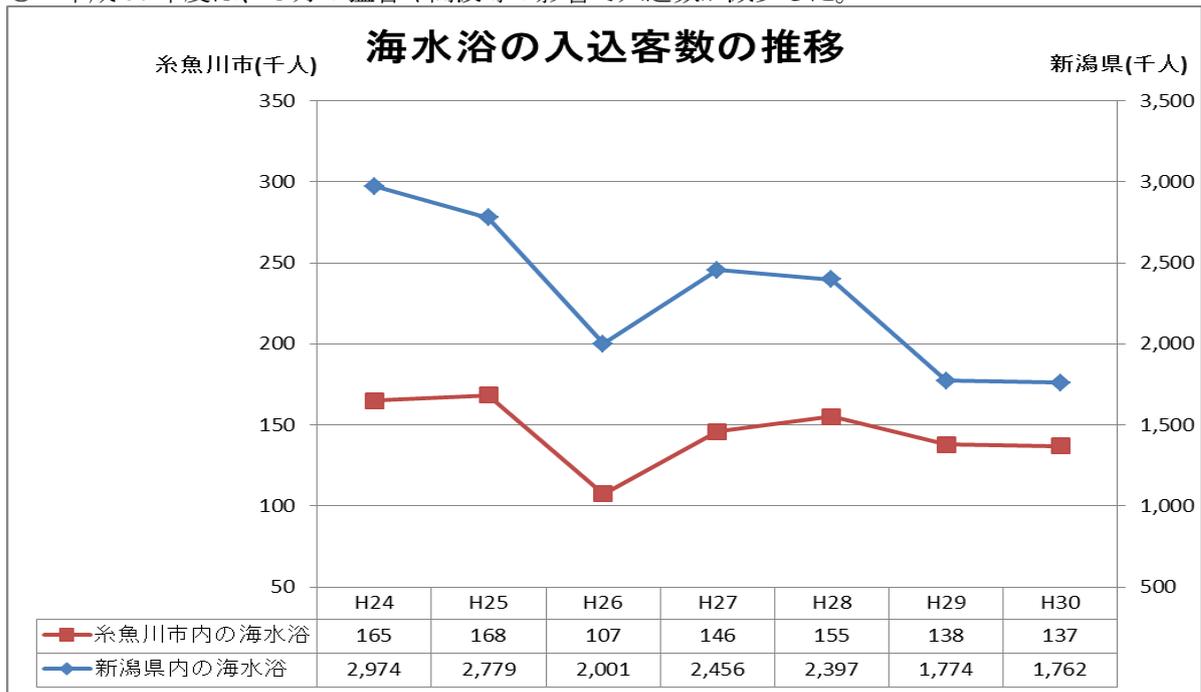
(1) 温泉施設

- 新潟県内の温泉施設の入込客数は、ほぼ減少傾向が続いている。
- 糸魚川市内の温泉施設の入込客数は、平成 27 年をピークに減少傾向となっている。



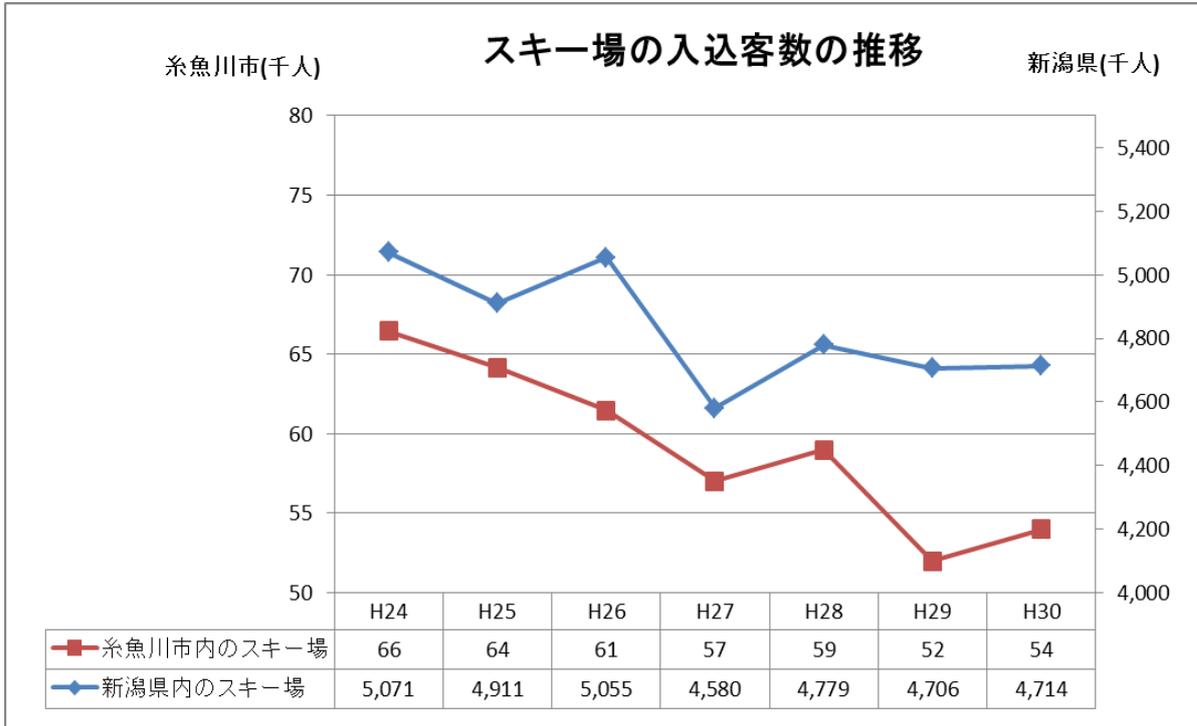
(2) 海水浴

- 新潟県内と糸魚川市内の海水浴の入込客数は、同様の傾向を示している。
- 平成 30 年度は、8 月の猛暑や高波等の影響で入込数が減少した。



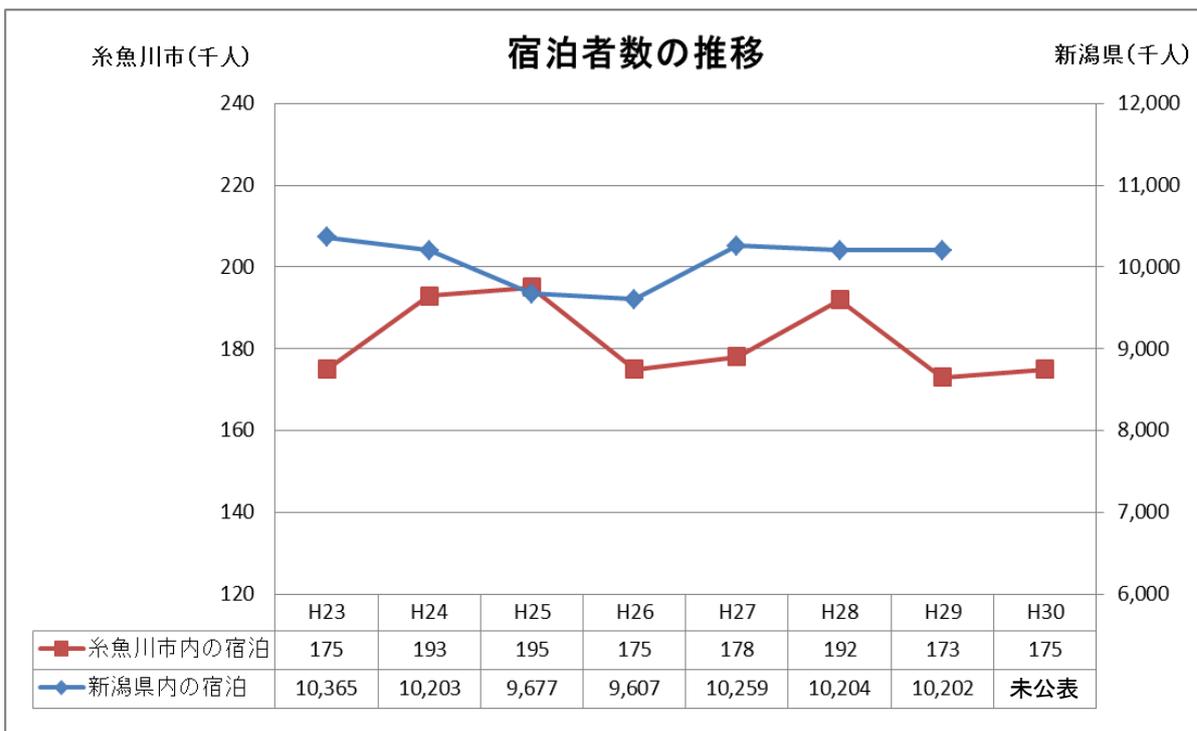
(3) スキー場

- 新潟県内と糸魚川市内のスキー場の入込客数は、同様の傾向を示している。
- 平成 30 年度は、平場を中心に積雪が不足したが、外国人利用客数が増加した。



3 宿泊者数の推移と新潟県入込客数との比較

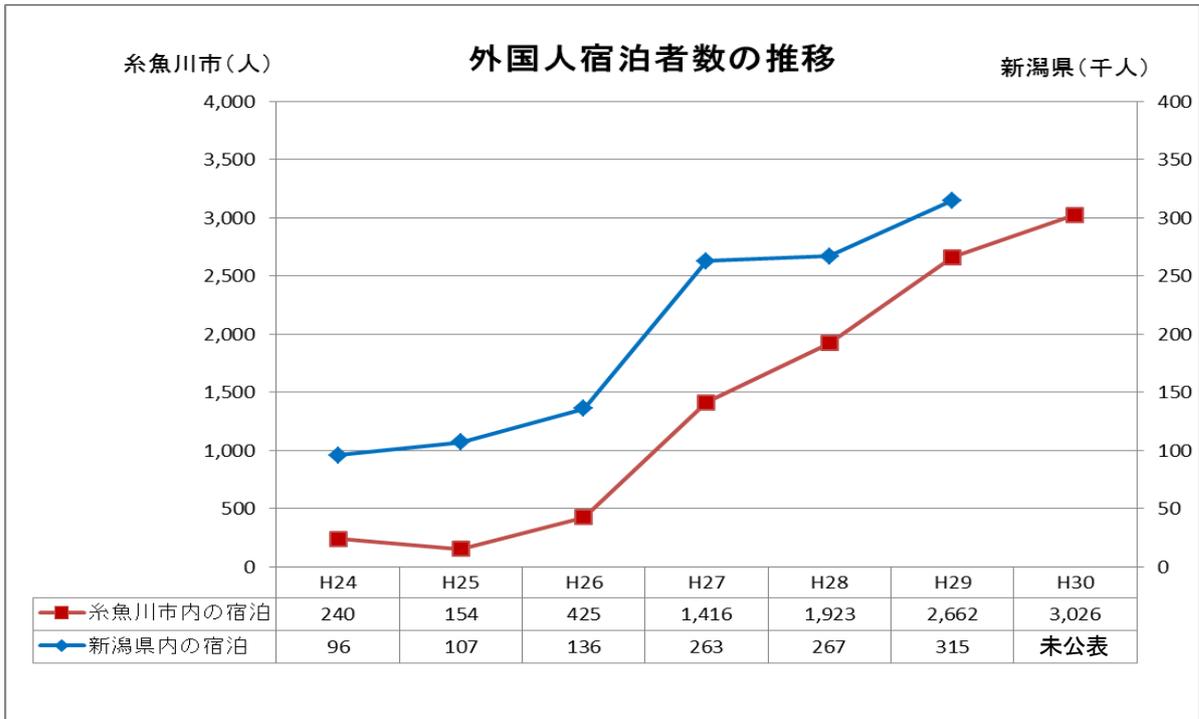
- 新潟県内の宿泊者数は平成 23 年に 1,000 万人を突破し、概ねその水準を維持している。
- 糸魚川市内の宿泊者数は、北陸新幹線の開業に伴い平成 27 年度から増加傾向に転じていたが、平成 29・30 年度は開業以前のベースに戻った。



4 外国人宿泊者数の推移と新潟県入込客数との比較

観光庁が実施・公表している宿泊旅行統計調査の数値をもとに図表に加えた。

- 糸魚川市内の外国人宿泊者数は、新潟県内と同様の傾向を示している。
- 平成30年度の糸魚川市内の外国人宿泊者数は、前年比113.4%と増加した。



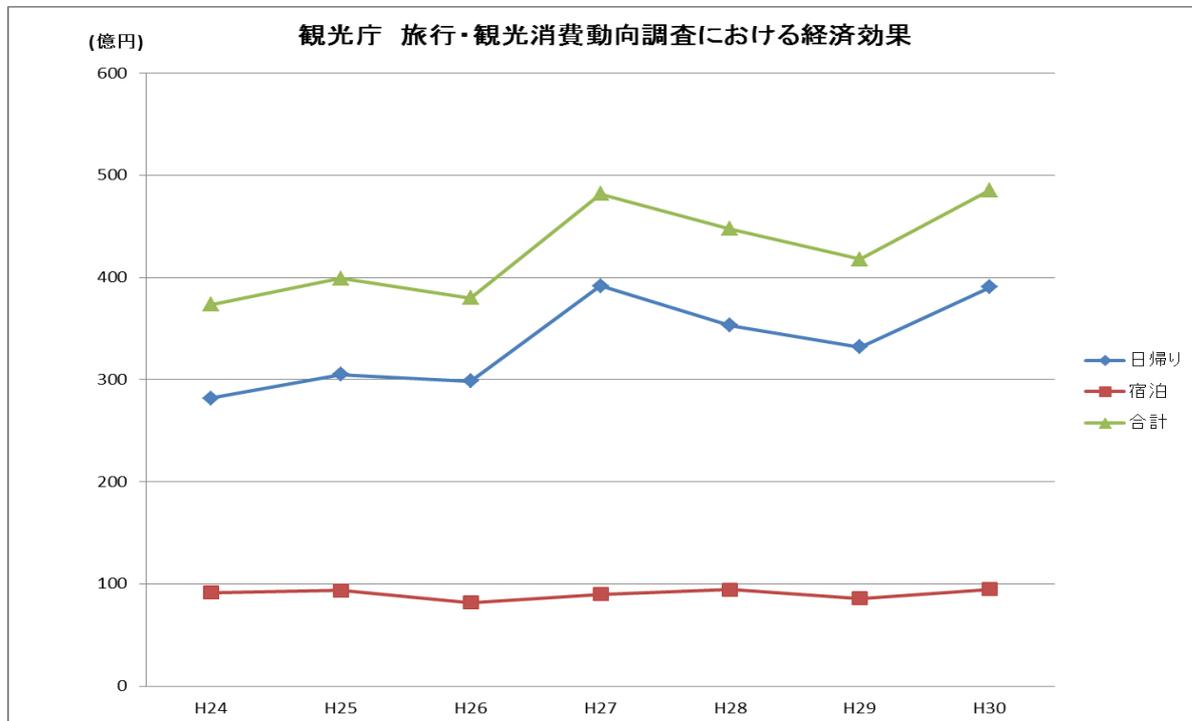
IV 経済効果

1 観光庁「旅行・観光消費動向調査」における経済効果

観光庁が発表している、旅行・観光消費動向調査に基づき経済効果を試算した。

- 北陸新幹線開業前後で、経済効果の合計額が100億円増加していたが、その後ゆるやかに減少傾向にあった。しかし、平成30年度は日帰り、宿泊ともに単価が増加したことにより経済効果の合計額が増加した。

年度	日帰り			宿泊			合計 (億円)
	単価 (円)	入込客数 (千人)	経済効果 (億円)	単価 (円)	入込客数 (千人)	経済効果 (億円)	
H24	14,972	1,883	282	47,444	193	92	373
H25	15,383	1,984	305	48,094	195	94	399
H26	15,206	1,962	298	46,717	175	82	380
H27	15,758	2,487	392	50,520	178	90	482
H28	15,602	2,263	353	49,234	192	95	448
H29	15,526	2,138	332	49,732	173	86	418
H30	17,264	2,263	397	54,243	175	95	492



2 糸魚川ジオパーク観光動態調査における経済効果

市内観光施設4地点において聞き取り調査を実施し、1人当たりの平均予算額から経済効果を試算した。

年度	区分	単価 (円)	日帰り		宿泊		合計 (億円)
			入込客数 (千人)	経済効果 (億円)	入込客数 (千人)	経済効果 (億円)	
H24	飲食	1,160	1,883	22	193	2	183
	お土産代	6,240		117		12	
	宿泊費	15,356		-		-	
H25	飲食	1,292	1,984	26	195	3	215
	お土産代	7,118		141		14	
	宿泊費	16,417		-		-	
H26	飲食	1,103	1,962	22	175	2	146
	お土産代	4,572		90		8	
	宿泊費	13,902		-		-	
H27	飲食	1,197	2,487	30	178	2	193
	お土産代	5,038		125		9	
	宿泊費	15,236		-		-	
H28	飲食	1,085	2,263	25	192	2	202
	お土産代	6,271		142		12	
	宿泊費	10,911		-		-	
H29	飲食	1,111	2,138	24	173	2	198
	お土産代	6,611		141		11	
	宿泊費	11,072		-		-	
H30	飲食	1,598	2,263	36	175	3	167
	お土産代	4,472		101		8	
	宿泊費	10,750		-		-	

※参考

MICE測定モデルにおける経済効果

観光庁が平成23年3月に公表したMICE (Meeting, Incentive, Convention, Event / Exhibition) 測定モデルを用いて経済効果試算した。

(億円)

指標	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
1.直接効果	165	172	165	208	200	186	195
2.間接1次波及効果	130	135	129	163	157	147	153
3.間接2次波及効果	75	78	75	94	90	85	88
経済波及効果(1+2+3)	370	385	369	465	447	418	436

V 平成 30 年度に講じた施策

平成 30 年度において交流人口を拡大させるため講じた主な施策は、以下のとおりである。

1 誘客宣伝活動の促進

(1) 観光素材の磨き上げ

- 海と山が近接している地形を生かし、それぞれの魅力を磨き上げ誘客を図る事業を実施

①海の魅力アップ推進事業

- ・「夏だ！海だ！糸魚川の海へ行こうキャンペーン」実施
実施期間…平成 30 年 7 月 1 日～平成 30 年 8 月 31 日

②山の魅力アップ推進事業

- ・白馬岳登山バス
運行区間…糸魚川駅→平岩駅前→蓮華温泉
実施期間… (ア) 平成 30 年 7 月 14 日～平成 30 年 8 月 19 日 (毎日)
(イ) 平成 30 年 8 月 25 日～平成 30 年 10 月 14 日 (土・日・祝)

利用実績… (ア) 1,876 人 (イ) 326 人

- ・雨飾山・戸倉山登山タクシー

運行区間…糸魚川駅→戸倉山→雨飾山荘
実施期間…平成 30 年 8 月 4 日～平成 30 年 10 月 21 日 (土日祝など、予約制)
利用実績…186 人

③スキー場利用促進事業

- ・「糸魚川市スキー等レンタル利用料補助金事業」実施
実施期間…平成 30 年 4 月 1 日～平成 30 年 5 月 6 日
平成 30 年 12 月 14 日～平成 31 年 3 月 31 日
利用実績…289 件 (スキーセット 244 件、スノーボードセット 19 件、ウェア 35 件、スノースクート 1 件)

(2) 観光情報の発信

- インターネットを活用し、糸魚川の魅力を発信
- 糸魚川市観光協会と連携を強化し、観光情報のワンストップ窓口化を推進

①ホームページ (糸魚川観光ガイド) による情報発信

- ・新着情報、イベントカレンダー等の更新
- ・観光施設、観光素材の情報発信

②SNS (糸魚川ユネスコ世界ジオパーク) での情報発信

- ・フェイスブック…フォロワー数 2,652 人
- ・ツイッター…フォロワー数 1,573 人
- ・インスタグラム…フォロワー数 546 人

③観光案内所の開設 (4 か所)

- ・案内所問合せ件数……25,467 件 (対前年比 99.5%)

④観光パンフレット請求件数……142 件

(3) 効果的な宣伝活動の強化

- 様々なメディアを利用した広告出稿や市外観光キャンペーンの実施

項目	内容	回数
広告出稿	テレビ	1回
	新聞	1回
	雑誌	4回
	インターネット	1回
	その他	1回
観光キャンペーン	市外での観光PR	12回

(4) イベント等の実施と支援

- 糸魚川の認知度を向上させるため、市内イベント等に対する支援を実施

① 実行委員会など実施するイベントへの助成

- ・利用実績…17 団体

② あんこうシャトルバス

- ・実施期間…(ア)平成 31 年 1 月 27 日
(イ)平成 31 年 2 月 3 日
- ・利用実績…(ア)91 人 (イ)82 人

(5) 観光関連産業の活性化と地域振興

- 民間団体と連携し、地元食材を通じた情報発信を実施

① うまいもん会への助成

- ・糸魚川市の食等を通じて糸魚川市の情報発信と特産品開発を図る。
- ・「ブラック焼きそば」、「ジオ丼」、「メギス料理」

② 五醸の会への助成

- ・糸魚川市の地酒を通じて、糸魚川市の情報発信を図る。
- ・地酒で乾杯宣言
- ・糸魚川ヒスイと酒まつり（5月4日 ヒスイの日、来場者 1,600 人）

2 受入態勢の充実

(1) 観光地域づくりに向けた観光協会との連携強化

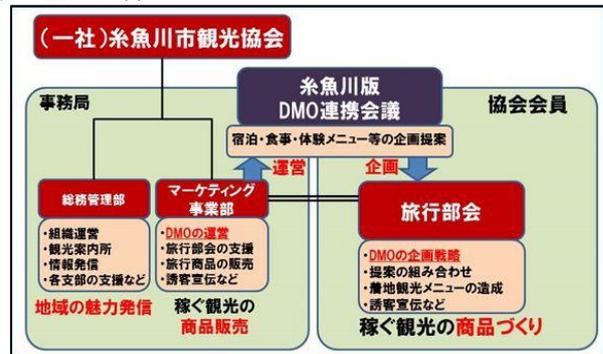
- 糸魚川版DMOの取組を進め、受入態勢についての機運醸成

①糸魚川版DMO連携会議開催

- ・開催日…平成30年11月29日・平成31年2月8日
- ・協議題…宿泊、食事、体験メニュー等の企画提案

②旅行部会

- ・開催日…平成30年8月2日開催
- ・協議題…DMOの企画戦略、
提案の組み合わせ、
着地型観光メニューの造成、
誘客宣伝など



(2) 体験型観光の推進

- 地域資源を活かした旅行商品の開発を行い、旅行エージェントなどとの連携を進め誘客を図った。(体験型観光、一般観光、モニターツアー等の調整)
- ・42 ツアー 1,556 人泊
- ・モニターツアー 28 人

(3) 広域観光連携の推進

- 広域連携のメリットを活かし、サイクルツーリズムなどによる誘客、インバウンド観光を図った。
- 鉄道の魅力を伝えることにより、北アルプス日本海エリアへの誘客を図った。

①北アルプス日本海広域観光連携会議

(ア)連携市町村

長野県大町市・白馬村・小谷村、富山県朝日町、新潟県上越市・糸魚川市
計6市町村

(イ)主な事業内容

(i)訪日プロモーション地方連携事業

- ・ターゲット…台湾、サイクリスト
- ・事業内容 …セールスコール、モニターツアー（旅行会社4社、ブロガー10人）

(ii)サイクルツーリズム推進事業

- ・自転車を貨物トラックで移動させ、サイクリストが周遊できる環境整備

(iii)鉄道フィギュアストラッププレゼントキャンペーン

- ・応募総数…988名

(4) 観光施設の整備運営

- 観光施設の適切な整備と管理運営を行い、施設の魅力や観光客の誘客を図った。

施設名	入込客数 (人)
ジオステーションジオパル	335,830
シャルマン火打スキー場	24,950
糸魚川シーサイドバレースキー場	29,520
翡翠園・玉翠園・谷村美術館	22,680
高浪の池 (白馬山麓国民休養地)	17,230

(5) 新幹線に対応した観光交通の確保

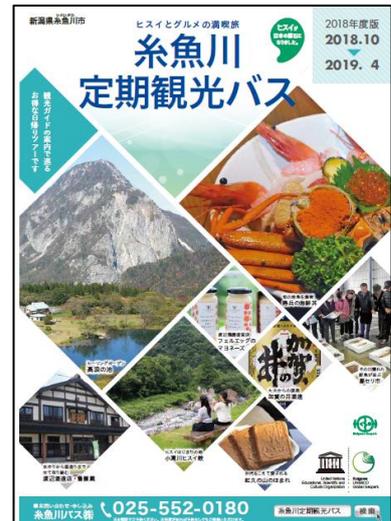
- 北陸新幹線など鉄道を利用し糸魚川市に訪れる方の利便性を向上させることにより、誘客を図った。

① 定期観光バス

- ・実施期間…年5回 計43日間
- ・利用実績…341人

(6) インバウンド観光の推進

- 白馬に訪れている外国人をターゲットにお食事バスを運行することで、糸魚川への誘客を図った。
- 民間団体と連携を行い商談会などへ参加



① 糸魚川シーフードシャトルバス

- ・実施期間…平成31年1月16日
～平成31年2月15日、10日間
- ・利用実績…179人

② インバウンド推進委員会との連携

- ・コンシェルジュ招致事業の実施
- ・「インバウンド受入に向けた個店の魅力アップについて」講演会の実施
- ・エージェント等の受入対応





ジオまる



ぬーな

糸魚川ユネスコ世界ジオパーク マスコットキャラクター

糸魚川市の観光の状況について（平成 30 年度版）
（令和元年 6 月発行）

編集・発行 糸魚川市産業部商工観光課
〒941-8501 新潟県糸魚川市一の宮 1 丁目 2 番 5 号
TEL 025-552-1511 FAX 025-552-7372